

第 18 回 カオスの会主催印象記

CAOS21 の会世話人代表
医療法人社団誠雪会
等々力眼科
院長 祿津 直久



本年のカオスの会は、第 1 日目は杉浦眼科、2 日目は稻村眼科で白内障手術の見学と講演、3 日目は参天製薬の講演と近藤眼科の施設見学と近藤先生の経営に関する講演会でした。経営をテーマにしたのは昨年に引き続き 2 回目です。

第一日目（8月2日木）杉浦眼科（富士市）

白内障手術 6 例と眼内レンズ逢着術 1 例を見学させていただきました。手術待合室では大きなスクリーンで手術を見ることが出来、交代で 17 名の参加者は 3 班に分かれて手術室に入り 2 例ずつ見学しました。セントラルディバイドテクニックによる見事な核割を見せてくれました。かなり硬い核にも対応できるよう試してみたい手法でした。杉浦先生はインフィニティ（Ozil）を持っておられますが今回は全例レガシー（Neosonix）をあえて使われました。理由は Ozil では虹彩の色素脱出と角膜のデスマフォールドを生じやすいということです。この指摘を最初にされたのは 2 日目に見学する稻村先生だそうですが、スリットの照明を正面（80 度くらい）から当てていると見逃してしまいますが、30 度くらいの斜めから当てるとき内皮側のフォールドを角膜創から中心に向かって認めるものです。

今後、Ozil を使う場合、十分注意していく必要があります。

眼内レンズの逢着は 1 件でしたが 1 時間半かけて手術をされていました。内視鏡も使ってものすごく丁寧な手術でした。数多くの工夫がなされておりこの道の第一人者であることを感じさせる手術でした。

第二日目（8月3日金）稻村眼科クリニック（横浜市）

カオスの会の前世話人代表をされていた稻村先生のクリニックです。今回は朝から22例の手術を参加者は1人1例ずつ助手用顕微鏡で見せていただきました。

8年前にもカオスの会で見学させていただきましたが、設備や術式も一新され新鮮に見学できました。イーグルチョッパーを用いた一手法を主体に硬い核ではダウンスロープスカルプティングとフェイコトップを組み合わせた二手法で処理をされていました。Ozilを使用されていましたが創口部直下にビスコートをたっぷり置くことにより虹彩色素脱出は防げるそうです。日本では一般的でない眼内麻酔や二手法でのアクリソフのスムーズな挿入、USチップを前房内に入れたままシリコンスリーブを90度回転させるなどボリュームサージャンの工夫にあふれ学ぶべきところの多い見学になりました。

第三日目（8月4日土）参天製薬講演会（午前）、近藤眼科（八王子市）（午後）

今回、3日とも近県で移動時間に余裕があり3日目の午前中は新宿ヒルトンホテルで参天製薬の眼科経営研究室の方の講演を聴きました。講演は予想外に興味深いもので白内障の患者さんが何を考えているのか何を手術時に期待しているのかを示していただきました。また各医院の患者さんに対するアンケートの取り方もかなり具体的な点まで解説していました。これならやってみようかなと思わせるものでした。今後の経営に大変参考になる講演でした。

近藤眼科は5つの診療施設をグループ化されており昨年11月に開院した近藤眼科片倉クリニックと本院である近藤眼科台町クリニックを見学しました。

片倉クリニックはPSC社（後発白内障ではありません）のサポートでオルカ（レセコン）を導入し、PSC社のリモラ（電子カルテ）、クライオ（画像ファイリング）を使用されていました。この施設で白内障手術適応と診断されると本院で手術になるわけです。

台町クリニックはビルの2階から5階までを占有し3階4階が外来、5階が手術室になっています。2階には糖尿病専門医による内科も併設されています。グループ全体で年間約1000件を越すの白内障手術をされています。

講演会では有機的に繋がったグループ診療所の仕組みやさらに給与の決め方など経営上のノウハウなどかなりつっこんだ事柄までお話をさせていただきました。

今回、三日間のカオスの会は参加前に期待していたものを遙かに超えた内容で大変充実した見学会になりました。各見学施設の先生方、スタッフの皆様、そして会の運営準備に当たってくださった細川社長、ジャメックスのスタッフの方々にお礼申し上げます。